

地域経済動向

平成 14 年 8 月 27 日

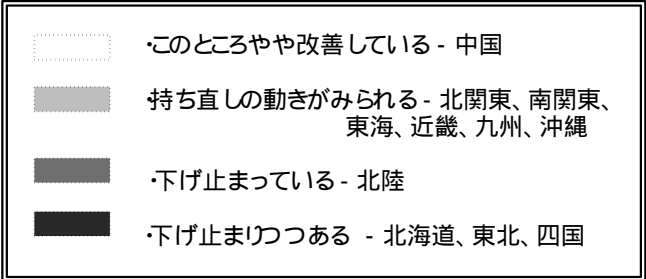
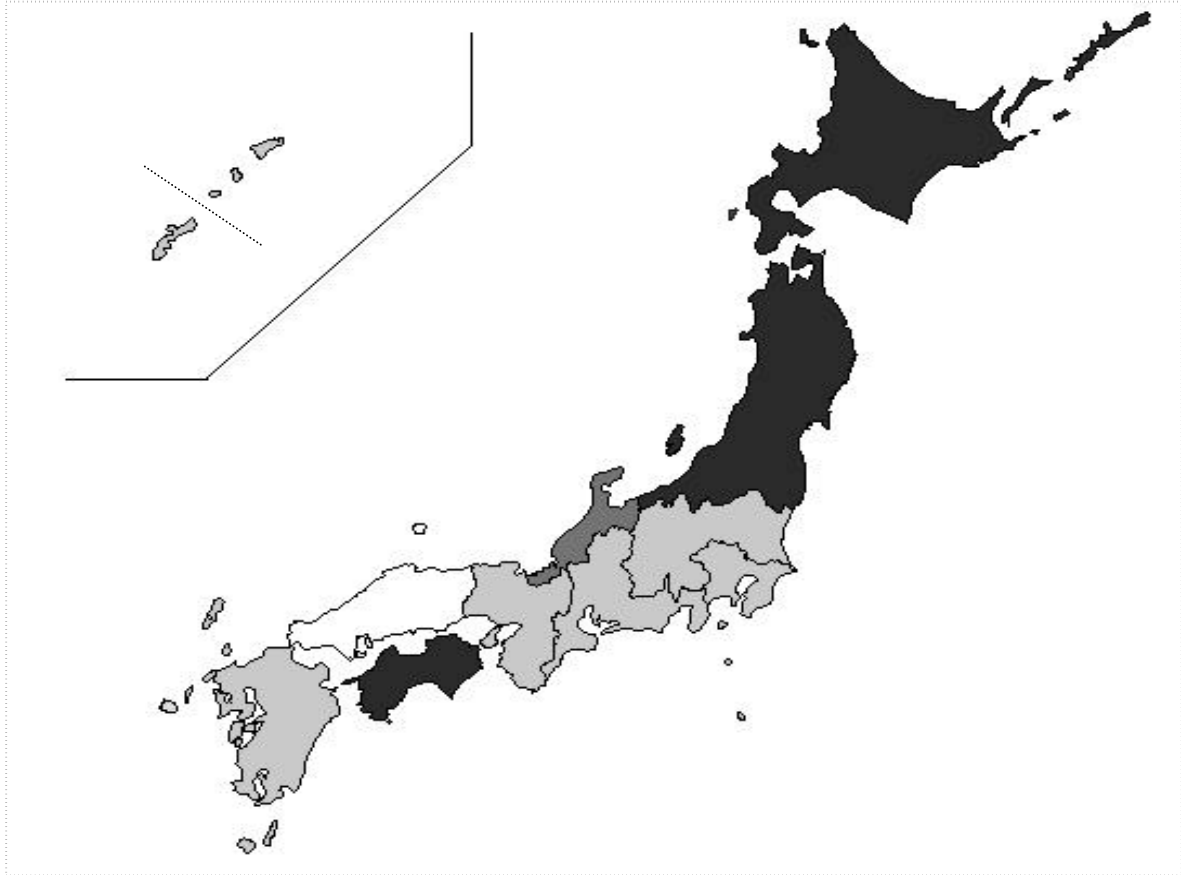
内閣府政策統括官
(経済財政・景気判断・政策分析担当)

目 次

1	地域経済の概況.....	2
2	地域経済トピック.....	6
3	地域経済の動向.....	8
4	地域景況インデックス.....	52
5	地域経済関連主要指標.....	54
6	産業関連主要指標.....	75
7	地域区分等	
(1)	地域経済動向調査実施機関.....	87
(2)	地域区分.....	87
(3)	地域別生産指数業種別ウェイト表(平成7年).....	88

1. 地域経済の概況

(1) 各地域の景況感



(2) 前回調査（平成14年5月）からの比較

総括表現

各地域の表現	北海道	東北	北関東	南関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
このところやや改善している											
持ち直しの動きがみられる											
下げ止まっている											
下げ止まりつつある											
依然として厳しい状況にある											

(備考) は、今回調査の判断。
 は、前回調査の判断。

～ 前回調査（平成 14 年 5 月）からの比較～

上方修正・・・8 地域（東北、北関東、南関東、東海、北陸、
近畿、中国、九州）

下方修正・・・1 地域（沖縄）

各地域の景況判断は、鉱工業生産の上方修正を主な理由として、8 地域で上方修正となった。上方修正の幅は、大きな順に、北関東、北陸、近畿、中国、九州、そして、東北、南関東、東海となっている。沖縄は、住宅建設を主な理由として下方修正となった。北海道、四国については、前回と同じである。

今回調査の特色

このところやや改善している中国

中国：鉱工業生産は増加しており、個人消費はおおむね横ばいとなっており、雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

持ち直しの動きがみられる北関東、南関東、東海、近畿、九州、沖縄

北関東：鉱工業生産は増加傾向にあり、個人消費はおおむね横ばいとなっており、雇用情勢は依然として厳しい。

南関東：鉱工業生産は増加傾向にあり、個人消費はおおむね横ばいとなっており、雇用情勢は依然として厳しい。

東海：鉱工業生産は増加傾向にあり、個人消費はおおむね横ばいであり、公共投資は前年を上回っている。

近畿：鉱工業生産は増加傾向にあり、個人消費はおおむね横ばいとなっており、雇用情勢は依然として厳しい。

九州：鉱工業生産は増加傾向にあり、個人消費はおおむね横ばいとなっており、公共投資は前年を上回っている。

沖縄：観光は増加傾向にあり、個人消費は持ち直しの動きが続いており、住宅建設は緩やかに減少している。

下げ止まっている北陸

北陸：鉱工業生産は増加傾向にあり、個人消費はこのところやや持ち直しており、雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

下げ止まりつつある北海道、東北、四国

北海道：鉱工業生産は緩やかに増加しており、個人消費はおおむね横ばいとなっており、雇用情勢は依然として厳しい。

東北：鉱工業生産は増加傾向にあり、個人消費はやや弱含んでおり、雇用情勢はさらに厳しさを増している。

四国：鉱工業生産は緩やかに増加しており、個人消費はおおむね横ばいとなっており、雇用情勢は依然として厳しい。

地域経済動向における各地域の景況の推移

	13年 2月	5月	8月	11月	14年 2月	5月	8月
北海道	足踏み状態	弱まっている	大幅に悪化している	大幅に悪化している	悪化のテンポが緩やか	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
東北	改善が続いている	弱含んでいる	大幅に悪化している	大幅に悪化している	大幅に悪化している	依然として厳しい状況にある	下げ止まりつつある
北関東	改善のテンポが緩やかに なっている	弱含んでいる	悪化している	一段と悪化している	一段と悪化している	下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる
南関東	改善のテンポが緩やかに なっている	弱含んでいる	悪化している	一段と悪化している	一段と悪化している	下げ止まっている	持ち直しの動きがみられる
東海	改善が続いている	足踏み状態	弱まっている	悪化している	一段と悪化している	下げ止まっている	持ち直しの動きがみられる
北陸	緩やかな改善が続いている	弱含んでいる	悪化している	一段と悪化している	一段と悪化している	依然として厳しい状況にある	下げ止まっている
近畿	改善のテンポが緩やかに なっている	弱含んでいる	悪化している	一段と悪化している	一段と悪化している	下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる
中国	改善のテンポが緩やかに なっている	弱含んでいる	弱まっている	悪化している	悪化している	下げ止まっている	このところやや改善している
四国	足踏み状態	弱まっている	大幅に悪化している	大幅に悪化している	悪化のテンポが緩やか	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
九州	改善が続いている	弱含んでいる	悪化している	一段と悪化している	悪化している	下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる
沖縄	回復している	緩やかな改善が続いている	おおむね横ばい	弱まっている	悪化している	このところやや改善している	持ち直しの動きがみられる

(備考) は上方修正。 は下方修正。

2. 地域経済トピック

<トピック> 「景気ウォッチャー調査」にみるサッカーワールドカップの効果

- 景気ウォッチャー調査・6月調査（調査期間6月25日～同30日）における景気の現状判断に関して、総回答者数1,823人中、187人（10.3%）がサッカーワールドカップについてコメントした（表1）。
- 分野別にみると、小売関連（百貨店、コンビニ等）、飲食関連（レストラン、スナック等）、サービス関連（ホテル、タクシー等）にコメント者が集中した。コメントの内容をみると、一部にはプラスの影響がみられたものの、ワールドカップにより外出を控える人が多く、客数が減少したというマイナスの影響を指摘するものが多数を占めた（表2）。また、薄型テレビ等を中心に好調だった家電量販店も、4か月ぶりにDIが低下した（図1）。
- 地域別にみると、南関東、北海道、近畿、東北においてコメント者数の割合が高く、北陸、四国、北関東、沖縄においてコメント者数の割合が低くなっており、開催ゲーム数の多かった地域や開催都市の人口の大きい地域でコメント者数の割合が高いという傾向がみられた（表3、図2）。
- 我が国初のワールドカップの効果を総合的に評価することは難しいが、景気ウォッチャーによる6月の景気の現状判断にはマイナスの影響を与えたと言える。

表1 景気ウォッチャー調査・6月調査におけるサッカーワールドカップ関連コメント数

現状判断	◎	○	□	▲	×	合計	総回答者数	ワールドカップ 関連コメント者 数/総回答者数	6月の現状 判断DI	(5月の現状 判断DI との差)	
合計	1	19	55	76	36	187	1823	10.3%	42.9	(-3.3)	
分野別	家計動向関連	1	18	50	71	36	176	1253	14.0%	41.8	(-3.8)
	小売関連	1	9	22	39	8	79	729	10.8%	42.5	(-4.0)
	飲食関連	0	2	11	11	12	36	88	40.9%	34.9	(-5.3)
	サービス関連	0	7	17	21	16	61	348	17.5%	41.8	(-2.7)
	企業動向関連	0	1	2	5	0	8	391	2.0%	45.3	(-3.1)
	雇用関連	0	0	3	0	0	3	179	1.7%	45.9	(-0.2)
地域別	北海道	0	2	9	6	0	17	113	15.0%	40.0	(-1.9)
	東北	0	5	9	8	3	25	208	12.0%	44.7	(-2.7)
	北関東	0	0	3	4	1	8	174	4.6%	42.2	(-3.1)
	南関東	0	4	14	18	7	43	282	15.2%	41.1	(-5.0)
	東海	0	1	5	7	7	20	212	9.4%	43.4	(-5.0)
	北陸	0	0	0	3	0	3	94	3.2%	45.5	(-0.9)
	近畿	0	3	8	16	4	31	252	12.3%	41.8	(-1.4)
	中国	0	2	3	5	5	15	170	8.8%	47.4	(-1.6)
	四国	1	0	0	3	0	4	96	4.2%	40.9	(-3.0)
	九州	0	1	3	5	9	18	180	10.0%	40.7	(-6.6)
沖縄	0	1	1	1	0	3	42	7.1%	51.8	(-2.4)	

(3か月前と比較した景気の現状判断が、◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている)

表2 代表的なコメント

判断	コメント（地域、業種）
○	・サッカーワールドカップのイングランド対アルゼンチン戦の開催があり、イギリス人の買物が大量である（北海道＝コンビニ）。
□	・残念ながら、サッカーワールドカップの影響はほとんどなく、逆にテレビの放映中に来客数が減少してしまっている（北関東＝コンビニ）。
▲	・サッカーワールドカップ開催前は、ビジュアル部門を中心に需要が盛り上がったが、期間中は来客数が極端に減り、売上に大きな影響が出ている（南関東＝家電量販店）。 ・サッカーワールドカップの影響で、旅行需要そのものが低迷し、前年同月比マイナス10ポイントの売上ダウンである（九州＝旅行代理店）。
×	・サッカーワールドカップが大分で開催されたが、我々の店にはかなり悪い影響が出た。当店だけでなく、周りの飲み屋街全体がそうであった（九州＝高級レストラン）。

図1 家電量販店DIの推移

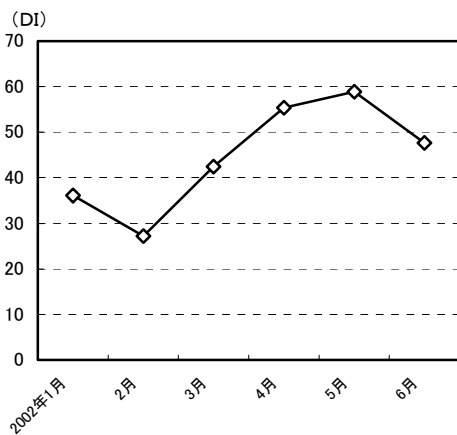


表2 開催地一覧

スタジアム名	開催ゲーム数	開催都市人口
札幌ドーム	3試合	札幌市(人口:182万人)
宮城スタジアム	3試合	仙台市(人口:101万人)
新潟スタジアム	3試合	新潟市(人口:50万人)
茨城県立カシマサッカースタジアム	3試合	鹿嶋市(人口:6万人)
埼玉スタジアム2002	4試合	さいたま市(人口:102万人)
横浜国際総合競技場	4試合	横浜市(人口:343万人)
静岡スタジアムエコパ	3試合	袋井市(人口:6万人)
長居陸上競技場	3試合	大阪市(人口:260万人)
神戸ウイングスタジアム	3試合	神戸市(人口:149万人)
大分スポーツ公園総合競技場	3試合	大分市(人口:44万人)

(備考)開催都市人口は平成12年国勢調査による。

図2 各地域におけるワールドカップ関連コメント者数の割合と開催ゲーム数

